

基調報告

周易上卷

自古明帝者，學富五經，通曉萬物，地極人之靈，氣盡物之全。雖上行樂於山間，下遊樂於水濱，而無所不至也。及入長安，見化大嚴制，庄重威容，乃驚歎曰：「中國權力，三秦以終進輶也。」

奥西の藝術的の方の者、學生、市民の多くが、今秋、現代世界の根柢から翻動してゐる事態極めて明確にして、既成の文藝は即ち權力のモ剝的攻撃によって切れてゐし、それは現代精神主義を途方なく、根本に顛覆しておどされ、今や其の往日ある事らるべ、單獨して單なるアーティストとして、

くる。それは、日本のものであるに似て、暴力的、政治的対立は構造的、機械化し、帝國主義的内部の
統一として切り開いて来た。この統一戦線の最高の動・軍人民の終反撃の前に立ち、その命をばキつと犠牲した
戦士物語、しての『軍歌』、八十ヶ羅戦争以前、へにはなつた。
国际間経済争いは日本農業へ到達する所としている。日本農業の問題をこなさなければ、
この八ヶ羅の日本農業生産上はなつてはならぬ。工業的的情
の到来た物語つており、それは明治から60年以來、英國主義の植民地化、半殖民地化、半封建化につ
ての植民地化、その高度成長化と連じて経済過
の困難が、全社会的、巨額生田縫の波前をひくえ
る難をもつてゐる。

このことは、華美的情勢の全世界的趨勢による到来を物語つてゐる。体制そのもの及、自由をはじめ田畠和伊藤の本位主義と實業に、それに對して帝國主義列強は自らの實業の延展策として侵略、抑圧、反萬國戰略によって切り抜けようとしたのである。

新たに日本が主義諸列強の對立を起さしめて
るし、そして又、ピートローニヤも出でて、レーピンは者
寡群における政治的、軍事的自立の葉化と、後進國
民族解放斗争と、革命戦争への全面的な發展化とし、
種族を押しつぶす事などの壓制として旧体制のも
の全面的な顛覆を必然化せしめている。
この點は現在最も表面的に先進帝國主義諸國にお
けるとして、由米英連合の軍事的壓迫として压縮されし日本が
この過度な暴力斗争の逼迫、血口強力打撲の統
統確立され、又、民主主義的反発がそのもとを爲す事は良様にお
かれて、其の事が出来ることとしてそのもとを
現代世界の矛盾と、その根柢における顛覆化也、全世界的の根本における進歩と、全世界的の激動期をいかに生
じるか敵に、被支配者階級の全面的勝利以外には、
体的に切り崩くのみ、一矢一毫今秋日保満然と譲り下された我々
主義の内撃を押してしまひ、種々の争奪を以て争取
へ島大へ生得である。

宗太、栗太、田太における暴撃事件は、熾烈なものが、いき幅を引せた。それは日本社会的国家的再編改革の中、反帝武隊の全国的震憾と、公然と宣言するにいたって、形成されてしき、人民反帝反官僚の潜在的な反権力意識に火をついた。この計画一五年余にわたる進捗は昨10／21年半
の事で、(註)一五〇

したしなら、その母は「これは田舎の風
の田舎一戦線を看張せしも、權力と
成したと画地」、「これは田舎の主義權
等の戰略確定をも画地に排撃する」として
ナニ。

現在の我々にはおしゃべりをする時間は全く許されて
戦勝に付して戦略で等える以外にはない
らしい。しかししながら今秋とりわけ、10・21斗争を起^{②全農連} 反戦のヨリと平行して、一方、三里塚・砂川、
暗的に切り掛けられ、せな井非でも、次の譲歩にて 北道士を始めとする想地対立斗争と、中小民間を軸とした
はふれておぬねぼむすのである。

I

◎ 墓地斗争をはじめとした、個別諸斗争の暴力斗争への転化とその限界性

③ に至り乍今、海に注目したのは、六〇年以来、皆々と
樂がれてより社会問題をはじめとする左翼反対派の線括り
あるし、この事は明らかに、帝国主義的劣化の攻撃の前
に觀念の次元で力ひでしか想定してゐなかつた事に基みて

④帝国主義的全社会的構成組織と日本帝國の解体
食料について

⑤新出版業の本流 丁度 同盟 テーマの会 社民
日英 支那問題

（丁）上井義道は之と同様に之
の構造の絶体的攻撃をアーノルト
ニヤードを主體とした全人民の主張によって敵意的
希望しながらせざりなしとして彼の産業主義列強
の威脅の要である。豈異に異能の攻撃を全世界

田井、諫評、反戦派との分極化をもたらし、とりわけ、
諫評は、この危機の深刻性を露呈せしむる点で力がった。
⑤ その中で松村にとっての弱い環は、官公爵である。そ
れ故に、村崎の形成と、島田洋深哉は不可避であつた。

東の軍隊の人民の力と軍の體で體して人民を
被ふ状にてはばかに

Ⅲ 反帝統一戰線の現段階と
權力斗争の自生の發生性

① ベトナム戦争の因時渡りと、自権力と抗

(6) 以上、官公紳商化を角田再編(大正二年)
事は、全共斗、反戦、ウエ半連の反帝線、左翼反対派、
日本専門の限界を突破し、止揚、統合する内容にあって
が、それは不可能であり、一二二〇、权力斗争の萌芽と
してのノーベルトアーノード、そして又、ソシエティの由来

分的衝突（砂川事件）を経る中で、権力の攻撃は極度に均質化し、三笠生徒連の組織化に暴力主義が自ら権力打倒、曰除主義の名の下に斗われるのは、極めて必然であったといふを得ない。これが、いわゆる革命的な（？）暴動の爆発によって、血ぬられたり。

、先進圏内部における階級形成、革命戦略の問題にかゝる
内容であることを確認してから必要がある。权力斗争と
しての未成熟、自然発生性はまさに、一つには意識上の問
題であり、二つには、权力斗争の构造の問題である。二つとも

丁、の間、1928の急舌工の問題を確認しておきたいのはなしか

→の基本的課題である同時に、中央权力斗争、帝国占領もこの争いその限界を突破する方法をもたらすだろう。

Ⅳ 中央權力斗争——MST

七〇年八月三日

政有于于

ア 最後には認しづけられなくな

我々は、今秋日保法哉、そ政治運営を「一重権力」へ
進撃を開始する所である。一九四〇年十一月十四日主導型ア

本日から10月21日までの間の結果は、11月10日まで遡る。10月21日までの結果。

議論主義程の日本階級斗争を权力斗争とド型階級斗争
革命的情況を切り開く爲めにオレである事は、極めて明白
であり、その事はアローレタニアートの長に抑圧と搾取
と屈従とにシテの間違えたキレヒリと拒否するヨリとして
開始されなければならぬ。一度権力に眞實めたアローレ
タニアートの本性そのものは、いかなる權力の暴や々々も
解体する事はできないであろう。自らの全般的な解放以
外にアローレタニアートの自我改造した事はヤサセーじ
あう。

我々のオーナーが既して、機械化も行なはれて、アーロンタニア本社のオーナーも行なう。アーロンタニアの機械化は、戦略的に大いに引上げられました。一方、日本では、おじい様が、機械化の普及をめざしてある。しかし、機械化は、窮屈な仕事の普及をめざすのである。アーロンタニアは、機械化を進めるのが、一貫してやつてゐる。これは、アーロンタニアの工場の爆発事故の原因の多くは、安全の問題であるから、安全のための機械化の問題である。一方、アーロンタニアの機械化は、一方で、工場の生産性を高め、一方で、工場の労働条件を悪化させる傾向がある。

馬鹿は到底叶へぬ。田舎者に於ては、その様な斗^{アシ}以外
には、決して叶へない。彼の内裡が田舎者全體のモス
トヨードある事を確認してやせむ。マジセーツト
とは、ヨリノハスナガラ者、最も高い田舎の質でもつて
いため、田舎者に於ける。

「ナニはばなうよ。」
「ナントハナシタクニ事也。
「ナニは、その為には有効な全ての手段を使して、帝曰
王室权力打碎斗争に爆進しことを眞摯である。

10/21 手争ひに又に手争ひ
又。 (日述)

大坂
新町公園
羽田斗爭
10.8

今にして思ふと、當時の日本はほんとうに、それは諸君がおこなつたのと、組織、権力、軍事を垣根へて、陸海空と連絡の命の意圖を確認したがためである。戰略上からみて、山に上りて運動會出の機関の本拠地であり、二の松、斗争によって、主導していつても、全く日本に対しても、用ひた統一戰線がなければならぬといふ。

兵庫
市役所前
11月5日
一、10.10 全関西統決起集会
京都 丹波普楽堂 河原町六七
総決起集会

（）の戦いの敗北が既にこの段階で終焉を告げ、各陣営
は、既に戦場にて、勝敗が決してある。しかし、戦況は、
ここに至る。しかも、それが田舎町の、田安松力の陣営と
シロハラの、田舎町の、田安松力の陣営と、田安松力の
西田町の、田舎町の、北大陸起庄斗争、田安松力の
西田町の、田舎町の、永続的に持続するものとしての
機関にまで、止む所すら、見出せなかつた。

10. 21 斗争
全廻曲の全ての勞働者、学生市民は、午後
より毎公園に結集し、中電局マッセンス
ト・北大阪斗争を斗ハヌウツ

10月1日、山口県山陽小野田市に本社を設立。同年12月、日本初の「セメント・セメント」を発行。

閩西地區反戰聯絡會議

□ 10 / 25 震度中級と想斗争に應じ
由麗又十一北大飯制庄斗争に起つ。

卷之三

組合民選部の二重化と組織主義的立場の占める割合
亡の由で、官憲は公社の彈圧に抗して十二日間再び戦闘したが、
市中寒々とした実の斗争が、今、かくやく大作を興作了つた。」（「ノーマン」）

金剛西の学術者、学生、市民の講演會の讲演のうちの中でも、田中重久は大阪制の「反対論」に對して、『マッセンハス』上に積極的に「反対する」立場で述べられてゐる。我々東地区反戦行進隊の一聲で打倒しておせ。

田中市立小学校の校門前で、田舎の老翁が、手に持つ籠の内に、十数匹の蟹を放して、それを賣つてゐる。蟹は、水盆に水を入れて置かれてゐる。

アーバン・リバティの「政治のマニフェスト」、既に、中間組織が明らかにしてしまったのである。如何にしてそのマニフェストの上であるかと、元々が政治的権力を握った非組織的市民であるが、必ずしもその権力の集中化を避けるのである。たゞ

「打倒！」と意志統一した、「塵毒を除け、孤高を
理想ね」と部隊リストラ室か、斗へこむ。今日の中電内部
の高揚感、力ちどられたのだ。

我々関西地区反戦連絡会議は、中電リストラの斗争に呼
応し、全国西に入り寒毛を作り、必死や「米2・オフの中

其後又以太祖之故，故歸焉。其後又以太祖之故，故歸焉。

のスクリーンに映して、多くの画面が並んで表示される。

卷之三

N.3
10.8

卷之三

今秋再び決起集会を領導し
70年代階級斗争の火の延びる宿は、實に至つたヘルメット、
ヨーロッパ

の新たに地平を切り開く中電マンセンス上
北大阪制庄・中央权力斗争貫徹をめです。

総会に庄重的に結集し、3名の革命的中産階級を先頭に、破竹の速さで開始した。10・3集会は、19世紀後半、階級斗争の原点としてこの仕事道を有するものである。

10

手にはこの時貴にありて明確に自分の手のやるがまゝに武器を手にしたのである。

田中マサセシストに蒙葉に水る全この勞働者、學生
の手が、70年で皆及半身の朝流を以て、革新的進

を押し開く時毫に今我々は立つてゐる。

10
6 中電局社前早朝集合
3名の當行者不當逮捕
電気上昇は結成され
ストマは
九月十三日

九月十三日

生毛不卜寔は結氏ニ也 今

スト冥は
続成以秉

秋深保根城主ヨシヤンスととして井の頭銀
の延喜に立つことを全日本の領主者に宣言し
た。田舎にて實は、叔父との關係を明確化

に理容院を組合、民同の反革命性を糾弾、
精神的・明かに既成帝位運動の全てに対決
する形で登場したのである。

セニスー中央双刀争奪戦として明確に表現したのであり、唯一革命的斗争の発展を示すものである。

然と大観の前に、斗りの宣伝を布告したのである。

の方針を直接組合員の前に提起した。ストщикは然るべき事で、ナレーターが三つ言ふ、「三つある」と。

象的に暴露し、党和政府の介入を圧倒的に粉碎し、九年半の保身争をめぐる情勢、中東マッセンズトを軸とした斗争

十一日 一二日、前日の決起集会にありて提出された
内閣と輸入人ネルディスカツニヨ
ンが取扱され、激しい討論の結果まとめていた。

へ一労働者より 1000 円カード、カードにて下サイ
ナロニスリ

二日 3 名の労働者から「正史的」革命への進歩キ

の歩一步として三日からの無期限ストに入宣

言が 食堂集会の場にありて、数百名の組合員の前に

宣讀された。それはまさに、日本中の労働者、学生を
代表する战士の登場であった。弾圧され、壓殺され続

けてきた全ての労働者にとって、この日までの道程は

これまでの程遠く、かつ苦しいものであつたが、3 名の战士
は、その直にふれて、さうして石二丸までの労働者の屈

辱の歴史を、その両肩に担り、戦線の先端に立つてゐる
である。組合主張、戦闘主張、体制内反対派の精神を

完全に完全に突破し、日本の労働運動史上に、新し
い一页を加えたのである。それは、革命に到る労働者
の精神に満ちた道程をハサキリと示したのである

三日 3 名の労働者、無期限ストに入宣。
玄関前坐り込みを始める。
食堂集会――突入報告。

全閣西流学園決定集会。中尾スト特別報告。

公社――通信局次長直轄、公社監制百数十名を十三
班に偏取し、戒厳体制をしく。

四日 聰制、30 教室を動員した所の彈圧を粉碎し
金田金英斗の仲間を除え、食堂集会断固貫徹

される。労働食堂集会を実力阻止する方針を展開。

これまで、甲府内部への部外者の出入りは、面会人
「組合」という形でかうじて保証してきた。この日
公社は「組合」の誰かと「う形で介入を始め、玄関横
の面食室より奥へは入れないと、う対応を示し、部外
者を一步も中へ入れず、強行に公社内諭統制体制に入
れた。

一方、組合とは、こうした事態に、もとより何ら明確な行動表示を行ないののか、今後「組合」という名目

で入りすることを許さないという形で、公社の弾圧体制の一環を自ら組合しているのである。又「組合」委員長、松葉は、「組合」とは、七階の組合室以外は、

は「そこには、執行部であるのは、私業自身であり、
もう二つを並んで、ほんとうにいう、組合私物化
の本質を自ら露呈しているのである。

組合・民同とは一体何なのか。それは、二のようないままである。

六日 早朝局社前集会費徹

官憲 私服 50 名 ④ 20% 天満署

の他多勢 1 全員タイ下の作制

民同 30 教室 勇ム 50 名

園スト 30 名 ビラ 10 教種類

公社の勇ム、組合民同、官憲をあわて弾圧作制が

全面化しその強烈の本質をカイで見せたのである。

我々の局社前集会は、二のよう体制を突破して断

固費徹された。しかし、二の間、3 名の労働者が不當

にモ逮捕され、しかも、勇ムはもとより、組合民同甚

めの全の指令は、官ケンによつて一元化され、

勇ムは社内からスト裏メンバーの実力による弾の出

し、民同は、組合員とスト裏メンバーの令旨とりつけ

形の、庄管体制が展開され、勇ムも事実上決定されたが、状

況を示すに至った。そして、組合民同の権力との野合

の実態は余りにも明瞭となつた。

食堂集会――、勇ム30 名の壁を、スト裏メンバーを
先頭に50 名で突破。集会、完全に無効となる。

七日 早朝ビラモキ、壁リニヤ

弟ム 30 名 スト裏 15 名

レーリとした組合員である二つのスト裏メンバー

(無期限スト甲) の入局拒否する。組合民同は、組合

の立入禁止と、う裏懲に残しても、既に何ら対応を示さぬでさす。勇ム、組合民同の反革命的本質が暴露され

されは遂に我々の斗争方針の正当性を人々に認証してこり、我々は二のよう斗争の中へ増々強固に強化されつゝある。

八日 早朝ビラモキ、壁リニヤ、スト裏 15 名

官ケン 50 名 民同 30 教室 壁リニヤヘアラ、

ヤード 20 教室 被支配者階級の会 2 名、スト裏を

見給しにする壁リニヤにメる。印通部会、片内デモ、
食堂集会、一空徹、民同、食堂集会を用意。